

(6) アスファルト合材

新潟県

記事提供：新潟県アスファルト合材協会

新潟県における令和元年度4月～6月期の出荷状況は、県全体で257千t・前年同期比9%減となり25千t減少した。新年度発注工事や高速道路舗装修繕への出荷が、前年に比べやや遅れていることが影響している。

地区別では、上越地区が56千t・前年同期比8%増で4千t増、中越地区が71千t・前年同期比1%減で1千t減、下越地区が124千t・前年同期比18%減で27千t減、佐渡地区が6千t・前年同期比14%減で1千t減となった。前年同期比は上越地区を除きマイナスとなり、特に下越地区の減少幅が大きい。

第2四半期の動向は、地元自治体の発注予定はあるものの民間舗装工事はやや低調に推移するとみられ、大型工事の施工は後半に予定されるものがあり前年並みの出荷は見込まれるが、今期減少分の回復は難しい状況。また、1月～3月期に落ち着いたアスファルト価格が再び上昇し、この傾向が継続すれば工場運営は更に厳しい状況が予想される。

富山県

記事提供：富山県アスファルト合材協会

富山県における令和元年度4月～6月期、出荷状況は、県計で9万9千tで前年同期と比べ9%の増となった。地区別でみると東部地区が5万7千tで16%の増。西部地区が4万2千tで増減0%となった。

これは、県、市町村工事が少なかったが、高速工事への出荷があり前年より、増となった。

7月以降は県、市町村工事が全県内で発注が見られるが期待されるほどではない。しかし、第2四半期は第1四半期より増となる見込み。

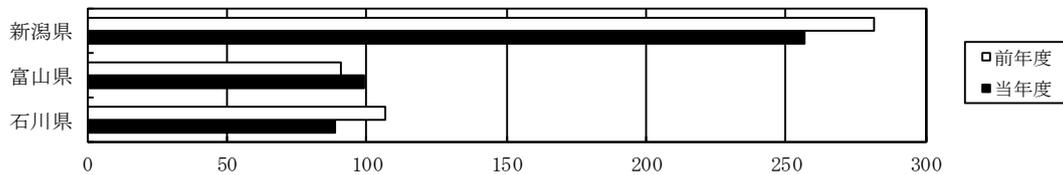
石川県

記事提供：石川県アスファルト合材協会

石川県における令和元年度4月～6月期の出荷状況は、前年同期に比べ加賀地区で前年比14.0%減、能登地区で前年比27.3%減、石川県全体では前年比17.1%減と第一四半期としては2年ぶりに石川県全体の出荷量が10万tを割った。

7月以降に関してもアスファルト関連について大きな物件も少なく、加えて、主要材料であるアスファルトは価格上昇の様相となっており、増加する人件費、補修等の維持費と合わせて、原価的には更に厳しい状態となっている。

アスファルト合材出荷量の推移(4月～6期)



(単位：千t、%)

県	地区	平成30年度 年計	令和元年度				累計
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	
新潟県	上越	42	8				▲79
		262	56				56
	中越	▲11	▲1				▲76
		290	71				71
	下越	5	▲18				▲79
		601	124				124
佐渡		8	▲14				▲77
		26	6				6
	県計	7	▲9				▲78
		1,179	257				257
富山県	東部	▲7	16				▲76
		233	57				57
	西部	▲9	0				▲78
		188	42				42
富山県	県計	▲8	9				▲76
		421	99				99
石川県	加賀	7	▲14				▲80
		344	71				71
	能登	11	▲27				▲82
		102	18				18
石川県	県計	8	▲17				▲80
		447	89				89

(注)・上段は前年同期との比較

・集計は、新潟県

会員32社のうち32社

富山県

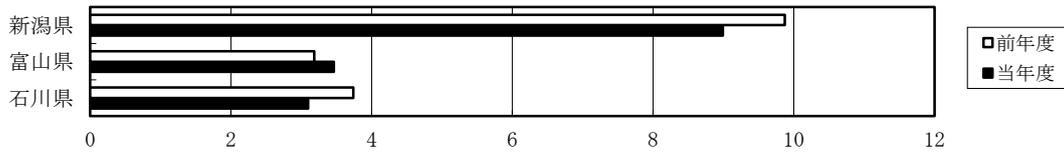
会員14社のうち14社

石川県

会員18社のうち12工場分

◎参考資料

アスファルト出荷量の推移（4月～6月期）



(単位：千t、%)

県	地区	平成30年度 年計	令和元年度				累計
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	
新潟県	上越	42 9.2	8 2.0				▲79 2.0
	中越	▲11 10.2	▲1 2.5				▲76 2.5
	下越	5 21.0	▲18 4.3				▲79 4.3
	佐渡	8 0.9	▲14 0.2				▲77 0.2
	県計	7 41.3	▲9 9.0				▲78 9.0
富山県	東部	▲7 8.2	16 2.0				▲76 2.0
	西部	▲9 6.6	0 1.5				▲78 1.5
	県計	▲8 14.7	9 3.5				▲76 3.5
石川県	加賀	7 12.1	▲14 2.5				▲80 2.5
	能登	11 3.6	▲27 0.6				▲82 0.6
	県計	8 15.6	▲17 3.1				▲80 3.1

(注)・上段は前年同期との比較

※特殊アスファルト合材等が含まれる全ての合材に対しての量

「アスファルト出荷量(千t) = アスファルト合材量(千t) × 3.5%」